

結成30周年を迎えた「ニューノーツ・オーケストラ」のメンバーたち＝埼玉県川口市で



「福祉施設に生のミュージックショーを届けよう」と月一回、関東地方を「巡業」して慰問演奏を続けている埼玉県川口市の市民ジャズバンド「ニューノーツ・オーケストラ」が今年で結成から三十年を迎える。「手弁当でもいいからジャズをやりたい」との熱い思いを抱いて活動してきたメンバーは二十八日、地元で無料の記念演奏会を開く。

オーケストラは昭和四十四年、トロンボーンを吹きながらジャズオーケストラを指揮するアメリカの代表的音楽家、グレン・ミラーに魅了された川口市立川口高校吹奏楽部OBが結成した。

アマチュアバンドには珍しくサクソホン、トロンボーン、トランペット、パーカッションの全十八パートに欠員

福祉施設でジャズライブ30年

川口のバンド28日に記念演奏会

なく、演奏者がそろった。ポーカーにはプロの女性シンガーを迎え、スタンダードジャズの本格的な演奏活動をしている。メンバーは二十一五十歳の男女二十人。公務員、タクシードライバー、調理師や主婦と顔触れは多彩。「とにかくジャズを演奏したい」と仕事の合間を縫って合奏を楽しむ人ばかり。

活動の場は福祉施設が中心。「施設に生のジャズ・ショーを」との思いから毎月、埼玉のほか、東京、千葉、栃木など関東各地の身体障害者療養施設などを訪れディナーショーやライブハウスのムーブを掲げている。

川口市の特別養護老人ホームでは、メンバーの奏でる「ムーンライト・セレナーデ」に合わせて入所者たちが

お年寄りからファンの追っかけ、車イスも

突然ステップを踏み始め、予想せぬダンスパーティーが実現したことも。

「音楽を楽しむ障害者の笑顔や、施設のお年寄りから届くファンレターが何よりの支えです」と話すのはリーダーでサクソホンを演奏する東海林明さん(四七)。車いすに乗って演奏活動の「追っかけ」をする障害者の存在も大きな励みだ。

結成三十周年記念演奏会は二十八日午後一時半から川口市市民会館で「A列車で行こう」などスタンダードナンバーを演奏。映画「グレン・ミラー物語」を音楽で再現する試みも。東海林さんは「物語の音楽化は結成当時からの夢。一人でも多くの人に聴きに来てほしい」と呼び掛けている。